

令和7年度 名寄南小学校経営計画

I 本校の教育目標

よく考え、たくましく生きる子どもの育成

・やさしく親切な子（徳）・たのしく学ぶ子（知）・たくましく元気な子（体）

【平成13年改訂】

「よく考え」とは、物事を筋道立ててとらえ、正しい判断力ができることを意味している。ものごとをよく観察したり人の話をよく聞いたりする中で、自分の考えを明確にし、主体的に課題解決に向けて行動ができる資質・能力を育まなければならない。

「たくましく」とは、身体的にも精神的にも健康で、困難に直面してもそれを乗り越え解決する力強さをもっていることを意味している。自分の立てた目標に向かって根気強く努力することができる意志と体力を育まなければならない。

「生きる」とは、自己を確立し、自他の幸せを願い、社会に生きる様々な人々とよりよい生き方ができることを意味している。毎日の生活に生きがいをもち、自他を尊重し、協力して励まし合い、自分のよさを發揮して生きていく態度と心を育まなければならない。

II 経営の基本方針

『子どもの成長が実感できる学校づくり』

III 育成を目指す資質・能力の重点

1 学校として育成したい資質・能力の重点

知識・技能 : 学習する知識の特質を理解して適切に使う力

思考力・判断力・表現力等 : 知識及び技能を活用して、課題を解決する力

主体的に学習に取り組む態度 : 粘り強い取組の中で、学習調整（取捨選択）する力

2 育成を目指す資質・能力の重点と学校の教育目標の関係

やさしく親切な子（徳）	たのしく学ぶ子（知）	たくましく元気な子（体）
知識・技能 ・学習する知識の特質を理解して適切に使う力	思考力・判断力・表現力等 ・知識及び技能を活用して、課題を解決する力	主体的に学習に取り組む態度 ・粘り強い取組の中で、学習調整（取捨選択）する力

IV 本年度の学校経営

1 年度の重点目標

(1) 地域・保護者の状況

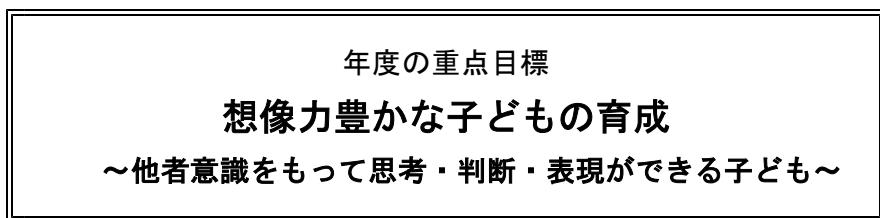
本校はJR名寄駅の南1.5kmに位置する。平成28年に豊西小学校・名寄西小学校との統合により、西町2区、西町3区、南5区が校区となった。校下は、商店街、住宅街、農村地域と多様である。学校に隣接しているスポーツセンター、テニスコート、市営プール、公園、広場などがあり、大変恵まれた環境下にある。町内会や関係機関で組織した安心会議や学校運営協議会で子ども達の安全を見守る体制ができている。

保護者はサラリーマン家庭、共働き家庭が多い。保護者の教育に対する関心は高く、参観日や学校行事には多くの保護者が来校する。

(2) 子どもの状況

日常的には、何ごともなかったかのように過ごす毎日ですが、ふとしたときに、失われた数年間について考えことがあります。例えば、高学年として周りからどのように見られているか全く無頓着な子が見受けられます。これはこの子がどうとか教師や保護者がどうとかいうことではなく、「経験不足」なのではと感じたりします。人と人との距離の問題もあり、本来、経験しているはずの衝突やその解決方法といった発達段階に応じた人との適切な関わり方を学べなかつたことがあるかもしれません。また「目指すべき先輩の姿」を見ることなく学年があがって、今、自分がその時になってどうしたらよいのか戸惑っているように見えます。この学年なのだからこうあるはずと決めつけることなく、コロナ禍の影響は確かにあることを認識した上で、教えるべきことはしっかりと伝え、気づかせるべきことは丁寧に導くという「心の育ち」を大切にした教育を今一度、顧みてみる必要があるかもしれません。

～上言研研究紀要巻頭言より



2 本年度の重点的な取組

(1) 教育課程（学習指導）

- ①「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した教育課程の編成・実施・評価・改善
＜総・教＞
- ②タブレットを有効活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
＜総・研＞
- ③目指すべき資質・能力の育成とともに、「わかる喜び」「できた感動」を実感できる授業づくりの推進
＜研＞
- ④体力・運動能力を向上させる取組の充実と基本的生活習慣の徹底
＜保＞

評価基準	評価方法(目標値)
タブレットを有効活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進している。	教職員自己評価 (3.2以上)
授業を通して、「わかる喜び」や「できた感動」を味わうことができている。	児童アンケート (3.2以上)
お子さんは、「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけた家庭生活を送ることができている。	保護者アンケート (3.2以上)

(2) 生徒指導(学年・学級経営)

- ①学級経営案をもとにした具体的手立ての交流、日常の学び合いによる指導力の向上
＜教＞
- ②自主的な挨拶を中心に、基本的な生活習慣の定着を図る指導の継続
＜生＞
- ③いじめの未然防止はもとより、早期発見を心がけた「いじめ見逃し0」の徹底
＜生＞
- ④自分や友達のよさを実感できるよう、自分の思いを表現できる場の設定と活動の工夫
＜教・研＞

評価基準	評価方法(目標値)
自分や友達のよさを実感できるよう、自分の思いを表現できる場の設定や活動の工夫が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)
毎日の生活の中で、自分から挨拶をすることができるている。	児童アンケート (3.2以上)
学校は、いじめの未然防止や早期発見に努めている。	保護者アンケート (3.2以上)

(3) 特別支援教育

- ①教育的ニーズに応じた個別の指導計画及び教育支援計画の実施・評価の充実 ＜支＞
- ②特別支援学級と通常学級との有意義な交流等、インクルーシブ教育の推進 ＜支＞
- ③授業における積極的なタブレットの活用などを通した授業改善の推進 ＜研・支＞
- ④保護者はもとより、特別支援学校や名寄市立大学、名寄市立病院、スクールソーシャルワーカー等、専門機関との連携強化 ＜支＞

評価基準	評価方法(目標値)
特別支援学級と通常学級との有意義な交流等、インクルーシブ教育を推進している。	教職員自己評価 (3.2以上)
授業における積極的なタブレットの活用など、授業改善を推進している。	教職員自己評価 (3.2以上)
保護者はもとより、関係機関や専門機関との連携強化を図っている。	教職員自己評価 (3.2以上)

(4) 学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）

- ①学校における働き方改革を中心に据えた学校運営や業務の見直しと改善 <総・教>
- ②学校運営協議会や安心会議等との連携による教育活動の改善・充実 <総・生>
- ③幼稚園、保育所、認定こども園、中学校との学校段階間の連携強化 <総・教・支>
- ④目指す児童像や具体的手立てについての共有（家庭・地域） <総・教>

評価基準	評価方法(目標値)
学校における働き方改革を中心に据えた学校運営や業務の見直しと改善が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)
幼稚園、保育所、認定こども園、中学校との学校段階間の連携強化が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)
学校は、目指す児童像や具体的手立て、学校・学級の様子をわかりやすく伝えることができている。	保護者アンケート (3.2以上)

(5) 予算、教育関係整備

- ①学びの場にふさわしい潤いのある校舎内外の環境整備（美化・整理整頓） <保>
- ②施設・設備・備品等の維持、管理、営繕の適正化 <総>
- ③先を見通した予算の計画的で正確な執行（見える化） <総>
- ④的確な事務処理や文書管理、廃棄、計画的な備品購入・整備 <総>

評価基準	評価方法(目標値)
先を見通した計画的かつ、正確な予算執行ができている。	教職員自己評価 (3.2以上)
的確な事務処理や文書管理、廃棄、計画的な備品購入・整備が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)
学校は、学びの場にふさわしい潤いのある校舎内外の環境整備に努めている。	保護者アンケート (3.2以上)

V 本校の学校経営の評価

1 本年度の重点的な取組（1）教育課程（学習指導）の自己評価

評価基準	評価方法(目標値)	結果
タブレットを有効活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進している。	教職員自己評価 (3.2以上)	
授業を通して、「わかる喜び」や「できた感動」を味わうことができている。	児童アンケート (3.2以上)	
お子さんは、「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけた家庭生活を送ることができている。	保護者アンケート (3.2以上)	

2 本年度の重点的な取組（1）教育課程（学習指導）の学校関係者評価

自己評価の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
【学校関係者の意見等】		

3 本年度の重点的な取組（2）生徒指導（学年・学級経営）の自己評価

評 価 基 準	評価方法(目標値)	結果
自己や友達のよさを実感できるよう、自分の思いを表現できる場の設定や活動の工夫が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)	
毎日の生活の中で、自分から挨拶をすることができている。	児童アンケート (3.2以上)	
学校は、いじめの未然防止や早期発見に努めている。	保護者アンケート (3.2以上)	

4 本年度の重点的な取組（2）生徒指導（学年・学級経営）の学校関係者評価

自己評価の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
【学校関係者の意見等】		

5 本年度の重点的な取組（3）特別支援教育の自己評価

評 価 基 準	評価方法(目標値)	結果
特別支援学級と通常学級との有意義な交流等、インクルーシブ教育を推進している。	教職員自己評価 (3.2以上)	
授業における積極的なタブレットの活用など、授業改善を推進している。	教職員自己評価 (3.2以上)	
保護者はもとより、関係機関や専門機関との連携強化を図っている。	教職員自己評価 (3.2以上)	

6 本年度の重点的な取組（3）特別支援教育の学校関係者評価

自己評価の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
【学校関係者の意見等】		

7 本年度の重点的な取組（4）学校力（働き方改革、地域連携、学校種間連携）の自己評価

評 価 基 準	評価方法(目標値)	結果
学校における働き方改革を中心に据えた学校運営や業務の見直しと改善が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)	
幼稚園、保育所、認定こども園、中学校との学校段階間の連携強化が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)	
学校は、目指す児童像や具体的手立て、学校・学級の様子をわかりやすく伝えることができている。	保護者アンケート (3.2以上)	

8 本年度の重点的な取組（4）学校力（働き方改革、地域連携、学校種間連携）の学校関係者評価

自己評価の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
【学校関係者の意見等】		

9 本年度の重点的な取組（5）予算、教育関係整備の自己評価

評 価 基 準	評価方法(目標値)	結果
先を見通した計画的かつ、正確な予算執行ができる いる。	教職員自己評価 (3.2以上)	
的確な事務処理や文書管理、廃棄、計画的な備品購入・整備が図られている。	教職員自己評価 (3.2以上)	
学校は、学びの場にふさわしい潤いのある校舎内外の環境整備に努めている。	保護者アンケート (3.2以上)	

10 本年度の重点的な取組（5）予算、教育関係整備の学校関係者評価

自己評価の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である	
【学校関係者の意見等】		